

1. 件名：「玄海原子力発電所3，4号機及び川内原子力発電所1，2号機の地震等に係る新基準適合性審査（標準応答スペクトルの規制への取り入れに係る変更）に関する事業者ヒアリング(5)、(5)」
2. 日時：令和4年6月22日（水）17時23分～18時20分
3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室
4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）
原子力規制庁：名倉安全規制調整官、海田主任安全審査官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、馬場係員、田島技術研究調査官（※）、松末技術参与
九州電力株式会社：土木建築本部 副本部長 他5名※
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 提出資料
 - ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 標準応答スペクトルを考慮した評価に関する今後の対応方針及びスケジュール
 - ・玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 標準応答スペクトルを考慮した評価に関する今後の対応方針及びスケジュール

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	委員会の標準とスペクトルのスケジュールですねこれのヒアリングを、
0:00:05	始めたいと思いますすいませんヒアリング先立ちまして6月1日で熊谷が異動になりまして、熊谷の後任で着任しました私鈴木と申します。
0:00:18	ちょうど、
0:00:20	仙台許可した後ぐらいですかね伊方の審査の時に私耐震化の総括、そのあと3年ぐらいやってまして、
0:00:29	そのあと、出向したりですね、ついこの間まで規制企画課と技術基盤課の総括係長をやってまして、数年ぶりに耐震化に戻ってきて、
0:00:39	今回の審査官という形で審査の方に入らせていただくということでありますのでよろしくお願いいたします。
0:00:46	川内玄海は熊谷に引き続いて、私がメイン担当ということになりますのでよろしくお願いいたします。
0:00:53	資料の方は今回川内玄海それぞれいただいておりますので、どうですかね仙台の方から代表してご説明いただいて、
0:01:03	玄海の方も、また同じところは移して、玄海特有の話で、
0:01:09	今の補足いただくというような形でご説明いただければなと思いますよろしくお願いいたします。
0:01:16	お願いします。
0:01:19	はい。九州電力高田です。それではご説明させていただいてよろしいでしょうか。
0:01:27	はい。お願いします。
0:01:29	はい。ありがとう。お願い。よろしくお願いいたします。
0:01:34	それではまず本日のご説明資料ですが、仙台の方がP P S 008、玄海がT P G 008、こちらの二つの資料をもとにご説明させていただきます。
0:01:47	今ありました通り仙台の方を説明させていただきまして、続けて玄海の方、基本的には同じ方針でございますので、違うところ差分についてご説明をさせていただこうと思います。
0:02:01	それではまず仙台のT T S 008を用いまして、
0:02:05	標準応答スペクトルを考慮した評価の今後の対応方針と、スケジュールについてご説明させていただきます。
0:02:13	まず1ページ目2ページ目ですが、これまでいただいたコメントのリスト、記載しております。
0:02:19	2ページ目のコメントNo.11、No.12について、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:24	前日 5 月 20 日の審査会後に見ていただきましたコメントを追記しております。No.11 についてですが、地下構造モデルについて今回、令和 3 年 4 月 26 日の
0:02:37	設置変更許可申請時の地下構造モデル、現申請のモデル、こちらを使用するのか、もしくは速度構造も含めて見直すのか、方針を示すことと、
0:02:48	ということで 3 ページ 4 ページの方でご説明させていただきます。あと No. 12 についてですが、全体スケジュールを考慮した上で、地下構造モデルの設定、地震動評価及び全体方針を示すこと。
0:03:01	ということで 6 ページ以降でご説明させていただきます。
0:03:05	No.12 に関連して、1 ページの方のコメント No. 8、No.9、に関する方針について、ナンバー12 のコメント回答に含めてご説明させていただきます。
0:03:17	またナンバー9 の地震基盤相当面のコメント回答については 5 ページの方で説明をさせていただきます。
0:03:25	それでは 3 ページお願いいたします。
0:03:29	コメントNo.11 を踏まえた当社対応方針についてご説明いたします。これまでの経緯ということで、1 月 21 日の審査会合においてナンバー8 の地盤減衰、
0:03:41	ナンバー9 の地震基盤相当面のコメントを受けまして、5 月 20 日に現申請の地下構造モデルから、速度構造も含めて見直し、そして、既許可の地下構造モデルをまとめて見直すという方針をご説明させていただきました。
0:03:56	その際に地下構造モデルについて現申請の地下構造モデルを使用するのか、それとも、速度構造も含めて見直すのか方針を示すことコメントをいただいております。
0:04:08	このコメントを踏まえて 4 ページになります。5 月 20 日審査会合においては、当社の基本スタンスを踏まえまして、最新の知見観測記録を取り入れて、
0:04:20	精度信頼性を向上させた評価により精緻化し、現申請の地下構造モデルから速度構造も含めて見直す方針をご説明いたしましたがこの場合には、妥当性の審査に期間を要するということから、
0:04:34	経過措置期間を考慮いたしまして、迅速に標準応答スペクトルを考慮した評価を行いまして、安全裕度の向上を図るべきという観点に立ちまして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:44	安全側の保守的な判断として下の表に示しております。現申請の地下構造モデル、こちらを使用する方針といたします。
0:04:55	続いて5ページですが、先ほどの現申請の地下構造モデル、こちらを用いるという方針に従いまして、地震基盤相当面に関するコメントNo. 9の回答資料になります。
0:05:08	現申請の地下構造モデルへのEL-1018.5メートル、AVS3010メートル/secの層状面に、地震基盤相当名を設定することといたします。
0:05:22	辻6ページです。このページ以降ではコメントNo. 12のコメント回答についてご説明させていただきます。
0:05:31	ここでは今後の全体スケジュールについて記載をしております。
0:05:35	残っております論点として表左側に載せておりますが、まず地下構造モデルの位置付け、地盤減衰については、7月末に資料を提出させていただき、その後、審査会合という流れを考えてございます。
0:05:50	地盤減衰については、妥当性確認のデータ拡充を目的に、追加のボーリング調査を実施いたしまして、ボーリング孔内でのQ値測定結果を追加。
0:06:00	して10月末に資料提出を考えております。
0:06:04	続いて地震基盤相当面につきましては、先ほど回答させていただいた通りでございますが、次回会合においてご説明をさせていただこうと考えてございます。
0:06:15	続いて模擬地震は、につきましては、地下構造モデルが確定した後に、ご説明を考えておりまして、時期として年明けの1月に資料提出させていただきたいと考えております。
0:06:30	最後、Ss確定後ですが、基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価を実施いたしまして、来年9月上旬に資料提出を予定しております。
0:06:41	続いて7ページお願いします。
0:06:44	この7ページ以降ではそれぞれの論点に対するコメント回答の方針を記載してございます。
0:06:50	まず地下構造モデルの位置付けについては、既許可の地下構造モデルを長周期体の地震動評価を目的に設定したものでありまして、現申請のモデルAは短周期体を含む地震動評価への適用を目的に、
0:07:05	無許可の地下構造モデルの表層付近の地盤減衰を精緻化して設定しておりまして、既許可の地下構造モデルと標準応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いる地下構造モデル。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:17	この二つを切り分けることとしております。
0:07:21	なお今回の現申請の地下構造モデルを用いて既許可の地震動評価を実施した結果、既許可の地震動評価に影響がないということを確認し、以前ご説明した内容から変わりはありません。
0:07:35	続いて 8 ページです。
0:07:39	8 ページコメントNo.8 の地盤減衰に関するコメント回答方針です。①から③までコメントいただいておりますが、まず①の高周波数体への適用性
0:07:51	につきましては、先日 5 月 20 日の審査会合にてご説明しました通り、一番現地の高周波数体における上限値に関する知見等をもとに検討を実施しております。
0:08:03	②の地震観測記録が入れていない深さについては、9 ページの方でフロー、検討フローということで示しておりますが、この図の左下になりますが、その上の部分解放基盤表面から最深部地震計までの範囲で設定しました、地盤減衰、
0:08:22	これの適用範囲を検討し、ご説明させていただく方針といたします。
0:08:28	と③の不確かさの考え方についても、考え方を整理し、地盤減衰を設定していることをご説明させていただきます。
0:08:37	さらに②③については、解析的な検討を踏まえて先ほどスケジュールのところで触れましたが、データ拡充を目的とした新たな追加調査による結果に基づく妥当性の確認。
0:08:50	9 ページのフロー図で、赤点、
0:08:53	赤点線の枠で示しております妥当性確認のところを実施することとしております。
0:09:00	具体的には、E L - 200 メーター程度の範囲で獲られた岩石コアを用いた減衰測定結果とボーリング孔内における減衰測定結果、これらを踏まえました検討によって、
0:09:13	設定した地盤減衰の妥当性を説明することを考えております。
0:09:19	続いて 10 ページ、お願いいたします。
0:09:22	地震基盤相当名については先ほどご説明した通り、でございますと次、続いて下の模擬地震はについては、他社審査での指摘を踏まえまして、
0:09:35	M7 X e q 10 キロで継続時間を設定することとしております。また一番水の移送持つ模擬地震はを採用したその妥当性についてもご説明をさせていただきます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:48	最後 11 ページですが、地下構造モデルと模擬地震はについて、これまでの経緯をまとめてございます。
0:09:56	まず新たな地下構造モデルの位置付けについてですが、現申請では既許可のモデルと切り分けるということにしておりましたが、5月の会合では、
0:10:07	菊川のモデルをまとめて見直すよう方針を変更しておりました。今回は、現申請と同じ方針に戻す形で、切り分けるモデルを切り分ける方針 A 再度変更しております。
0:10:20	次に地盤減衰については現申請からこれまで変更はございません。
0:10:25	あと速度構造、地震基盤相当面については、現申請では速度構造を見直さず、地震基盤相当面を V s 2150 の層に設定しておりました。
0:10:36	で5月の会合では、速度構造を見直してその V s 2200 以上の層を新たに設定するというを考えておりました。
0:10:45	今回は、速度構造は現申請のモデルに戻しまして、そのモデルの V s 3010 の層に地震基盤相当面を設定することとしております。
0:10:57	最後模擬地震はについては現申請では M6.9、楠井 90 キロで設定しておりましたが、コメントを踏まえまして、M7、X e q 10 キロで設定する方針としております。
0:11:08	川内については以上です。
0:11:12	続けて玄海のほうをご説明させていただきます。
0:11:19	続いて玄海の方ですが、資料、T P G 008 を用いて主に川内との差分についてご説明させていただきます。
0:11:28	まず 1 ページ、コメントリストですが、ちょっと仙台とコメントの番号は違いますが、No.5 と No.6 が 5 月の審査会合のコメントを記載してございます。
0:11:41	続いて 2 ページ、3 ページですがコメント N o. 5 を踏まえた当社対応歩対応方針を記載しております。
0:11:50	方針については川内と同じ方針ではありますが、経過措置期間を考慮して迅速に標準応答スペクトルを考慮した評価を行い、安全裕度工事、安全裕度の向上を図るべきとの観点に立ちまして、
0:12:02	安全が保守的な判断としてこちら下の表に示しております。現申請の地下構造モデル A を使用する方針といたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:13	4 ページの方が、コメント No. 3A の地震基盤相当面に関するコメント回答です。こちら前ページまでの方針を踏まえましてこちらは L-1000、
0:12:26	804 メーターの A V S 3100 の層状面に地震基盤相当名を設定することとしております。
0:12:35	続いて 5 ページ目からコメント No. 6 に対するコメント回答になります。スケジュールにつきましては、川内と同様ですが、追加調査を実施し、データを拡充する予定としてございます。
0:12:50	7 ページ以降についても川内と同様ですので割愛させていただきます。
0:12:56	最後、10 ページ、地下構造モデルと茂木は、これまでの経緯、基本的には川内と同様ですが、地震基盤相当面の値、
0:13:06	生かしてもともと現申請の時は V s 2100 のところを、A V S 3100 に変更するというところでございます。
0:13:15	原価についても以上になります。
0:13:27	はい。規制庁の鈴木です。ご説明ありがとうございました。
0:13:31	すいませんちょっとこちらから幾つかの質問なんですけどすいませんちょっと私がこれまでのところに追いつくためにですねちょっと基本的なところから幾つかご質問させていただきたいなと思っておりますがちょっと佐口の方から、はい。
0:13:47	規制庁佐口ですけども、ちょっと
0:13:49	細かい確認の前にまず一番最初にちょっと確認させていただきたいんですけど、
0:13:56	これ川内でも玄海でもいいんですけど川内と言うと、2 ページですね、
0:14:01	会合におけるコメントの仙台でいうと No.11、千田伊井、ごめんなさい、玄海と言うと、
0:14:10	No.5 なんですけど、ちょっとここは、後半の部分の速度構造も含めて見直すか方針を示すことはこれは多分いいと思うんですけど、前半の部分の、
0:14:21	今回の設置変更許可申請時の地下構造モデルを使用するのかっていうのは、
0:14:27	御社が多分そういう方針にされたいのかなと思うんですけど、我々からは、この文言って一切、
0:14:35	言ってないはずなんですけど。
0:14:37	違いましたっけ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:46	サグチ、規制庁サグチですけど、もうちょっと言うそうですね。
0:14:50	我々からは、会合でコメントしたのはもっとさらに前の企業開示のモデルっていうことを、
0:14:58	多分言っていて、
0:15:00	何かそれがいつの間にか、
0:15:02	変換されちゃっているのかなと思って、なので、別にその、
0:15:08	どのモデルを使うのか、既許可のモデル、それから今の申請時のモデルでそれから、さらに前回示された方針でやっていくようなモデル。
0:15:20	どれを使うかは別として、いずれにしても、どういう
0:15:25	モデルを使って、
0:15:27	度どういう方針で地下構造を評価をするのかっていうのをちゃんと示してくださいという。
0:15:34	趣旨で申し上げているだけで、少なくともこの今回の設置変更、
0:15:41	許可申請時っていうのは、多分一言も言ってないと思うんですよ。
0:15:47	ちょっとそこを確認させてください。
0:15:53	すいません九州電力の明石でございます。会合でいただいたコメントも含めて、今、佐口さんからご指摘の通りかなというふうには認識しております。
0:16:05	これちょっと当社が結局今後どういう方針でいくのかというところまで含めてちょっと先走って、コメントをという形でまとめちゃったかなという反省、してるところではありますけども、
0:16:17	ご指摘いただいた今佐口さんからご指摘いただいた通り、先般の会合のコメントはキキョカーのモデルを用いるのかと。
0:16:28	というようなご発言だったかとは思いますが、で、我々といたしましては既許可のモデルをベースとして、今回の申請書に競争分の減衰をいろいろ見直した上で申請をしておりましたので、
0:16:46	改めて既許可のモデルをベースとした申請時のモデルで、引き続き、引き続き改めて対応したいと。すいませんそういう意思が見え隠れするようなコメントの記載になってしまって、
0:17:01	おりました。ちょっとここコメントの記載についてはちょっと正確に取り直しますけども、我々の考え方としてはあくまで既許可のモデルをベースとして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:12	これまでもご説明しておりました通り、さらに今後ご説明すべきところとして認識しておりますけども、表層部の減衰、これを観測事実等を踏まえながら見直した形で、
0:17:26	対応していきたいというものでございます。
0:17:32	はい。規制庁佐口です。当然、今ご説明があったので、全体通してですね、御社の方針というのは、今回聞きおきましたけれども、ちょっとコメント自体はやっぱり、
0:17:45	正確じゃないですので、少なくとも、我々の趣旨がちゃんと明確にわかるように、このコメントについては修正いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。
0:17:59	九州電力です。承知いたしました。
0:18:06	はい。今のコメント、例えば仙台のコメント 11 はこの記載を見直していただくということで、よろしくをお願いします。
0:18:14	一応時系列の方はざっと私の方でも一通り
0:18:20	ではいるんですけども、
0:18:22	どこから行く。
0:18:25	すいません 4 ページ仙台で言うところの 4 ページなんですけれども、
0:18:31	先ほど赤瀬さんですかね、の方からもその許可のモデルこれをベースにして今回位置付けとしては、ベッドの位置付けとして作ると、いうような
0:18:43	今回の申請時のモデルっていうんすかね。形で作るということなんですけど、ちょっと評価のところのモデルが隣に並んでいないのであれなんですけども、これ既許可の長周期用に、
0:18:56	作っていたというそのモデル。
0:18:58	これとの違いって言うと、今 4 ページの下にある表でいうと、
0:19:05	どこに地震基盤を置くかっていうのがあるんですけど、それは除くと、数字としてはこの右端の、
0:19:12	9 次、これを、今 12.5 で次の枠も 12.5 になってますけど、これが許可の時に 100 だったものを、この二つの枠を 12.5 にするってそこだけなんですって。
0:19:27	九州電力の高田です。ご認識いただいている通り旧知の上二つ、12.5 の部分が 900 から 12.5 に直したものでございます。ちなみに限界の方も同じく E L - 200 メーターまでの

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:42	旧佐瀬委員会の方へ、資料中4ページになりますが、上から四つですね、92.5へとになっているところが既許可のモデルでは900。
0:19:56	ありがとうございました。
0:20:01	ありがとうございます。ありがとうございます。
0:20:04	えーっとですね、仙台で言うと、5ページ目。
0:20:10	これが今赤い線があって地震基盤相当面で、2100、V sでいうと、2150と3010の間、
0:20:20	ここに赤線が引いてあって、
0:20:23	これが本件の標準応答スペクトルの申請の時にはこの1個上、
0:20:30	A V Sでいうと1600と2150個の間に線があって、
0:20:35	これを前回の指摘を踏まえて、一つ下に赤線を持ってきましたと。
0:20:43	すいませんちょっと初歩的な話なんですけどその理解でやってます。
0:20:49	九州電力の高田です。その通りでございます。
0:20:53	はい。
0:20:55	規制庁佐口です。すいませんちょっと
0:20:58	私何か補足するのちょっとおかしい話なんですけど、
0:21:02	もうちょっと正確に言うと、仙台の方は4ページで、
0:21:08	上から2層目と、今のですね、4ページに示されている2層目と3層目っていうのは、
0:21:15	一つの同じそうじゃなかったでしたっけ。それを、
0:21:20	二つの層に分けて、上のところだけQ値を変えたと、そうじゃなかったでしたっけ。
0:21:30	九州電力の高田です。その通りでございます
0:21:34	E L - 228.5 から E L - 480 メーターまでは同一の層で設定しておりました。今回速度層に関して同じ値を設定しておりますがQ値に関しては、
0:21:47	200 メーターまで 12.5 D 分割いたしまして下に 100 メーターから 480 メーターはもともとの値 900 を使用してございます。
0:22:00	はい、規制庁サグチすみませんありがとうございましたわかりました。
0:22:04	なるほどわかりました。それでV sとV pが何故か一緒に木内だけが違っていてそういうことですね。はい。
0:22:14	わかりました。で、以上それぞれのところで幾つか方針は示されていますね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:21	つまりさっきのサグチの話で玄海の方はそういう何か分割したり統合したりってというのは、特にやってないってことですな。
0:22:30	九州電力の高田です。玄海の方は特に分割ということは実施してございません。
0:22:37	はい。
0:22:41	わかりました。
0:22:47	すいませんスケジュールの話が次のページにあったので、その辺の話でちょっと確認なんですけど。
0:22:56	この、1000、
0:22:59	上から2番目の米、玄海で度コメントNo. 2から1049回の星印の下から何か点線ロッカー、6月に…となって7月から
0:23:10	実線が延びている、データ拡充って書いてるやつなんですけど。
0:23:16	このデータ拡充と言っているのは、
0:23:21	これは具体的に他のページで言うと、どこに該当するかという、
0:23:30	玄海で言うと、7ページ目の、
0:23:34	③について、
0:23:38	の、
0:23:39	その下か、さらに②③についてか解析的な検討に加えてデータ荷重も知的さしたっていう。
0:23:46	多分この辺のことかなと思うんですけど。
0:23:49	これ、
0:23:50	前回の会合で5月20日で、これなんか6月のところに...ってなってるんですけど、
0:23:56	このデータ拡充ってというのは何か調査みたいなことをやられてるんですか。
0:24:03	九州電力の高田です。データ拡充の内容につきましては下、委員会では先ほど7ページの
0:24:14	委員会で7ページの一番下のところに記載しているものになりますが、追加調査といたしまして、追加でボーリングを掘りまして、そのボーリング孔内における減衰の測定、
0:24:27	を実施する予定でございます。衛藤、そちらを
0:24:33	の実施についてはスケジュールの中でデータ拡充として点線を引っ張っているところの内容でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:43	ありがとうございます戸高元そうですね玄海で言うと7ページですし、川内で言うと8ページの一番下、
0:24:51	ですね、この横棒を引いてからEL-200程度のもので書いてあるところで、この岩石コアはすでにあって、これを使っ
0:25:01	た減衰測定結果と言ってるんでこれはもう測定できてるんですかね。
0:25:08	ちょっとすいません。いずれから読み取ってしまって申し訳ないんですけど、
0:25:12	九州電力の高田です。衛藤。
0:25:15	では追加解析データ拡充として記載してるもの二つございまして岩石コアを用いた減衰測定とボーリング孔内における減衰測定、二つ記載をしてございますが、
0:25:25	岩石コアについてはコア自体はすでに採取したものを今、その減衰測定の検討を実施しているところでございます。2個目のボーリングに関してはこれから追加のボーリングを掘ってそこで
0:25:40	減衰を測定するという流れで実施する予定でございます。
0:25:48	はい。繰り返しで確認でありますけど岩石項あり、その減衰について、
0:25:55	測定値測定を、
0:25:57	検討中実施中、実施中で、
0:26:00	後者はそもそもボーリングを新たになんぼ降るかわかりませんが、ボーリングをこれから起こりますと、
0:26:07	ということですその後、ウーと同じように、ボーリング孔内、構内穴を掘った中ですかね構内で、同じく減衰測定。
0:26:16	してそれを踏まえて、両者を踏まえて検討して、
0:26:21	Q値の妥当性を確認しますと。
0:26:23	これがスケジュールでいうと、
0:26:27	なので、これは何でボーリングがこれからっていうところ7月の実線のところから始まるっていうそういうことですかね。
0:26:36	九州電力の高田です。その通り7月からボーリング、実際に掘り始めましてその結果を踏まえて10月、
0:26:46	末の資料提出を予定してございます。
0:26:50	なるほど。すいませんちょっと内訳はわかりづらいんですけど、これ
0:26:56	岩石考案はもうあるので、そちらはあるつどのかどこかのタイミングまでに、実際の解析というか、が終わりですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:07	ボーリングは多分何ヶ月掘るかあれですけど、例えばその2ヶ月ボーリングを打ってその先を、
0:27:13	実際の計算とかですかね。
0:27:17	減衰測定を行って、そこからある期間、検討をして、妥当性が確認できますっていうな内訳があると思うんですけど。
0:27:26	ざっとどのぐらいの内訳になるんですかねこれ。
0:27:32	九州電力の高田です。まず岩石コアについてはもうすでに採取したものがございまして、その結果を取りまとめまして、7月末に3角落としますがこの資料提出の段階で、
0:27:44	内容として盛り込んでご説明をする予定でございます。ボーリング追加のボーリング調査につきましては、これからを掘る関係がございまして、
0:27:55	盛り上がったところで減衰の測定をいたしましてその結果を取りまとめ10月末の資料提出の中でご説明をさせていただこうと考えてございます。
0:28:07	なるほどなるほど。それぞれっていうこと、意味ですねこれ。
0:28:11	はい。
0:28:14	最終的にトータルで妥当性の説明がそちらとしてそろってというのがこの
0:28:20	中、10月に資料で、11月ぐらいに会合ができればと、そういうことですか。
0:28:36	はい。
0:28:37	どうぞ。ちょっととりあえず、私からは以上です。はい。
0:28:41	ごめんなさいもう1点だけすみませんこれもしょうもない話なんで、
0:28:45	前回の10ページでいいんですけど、
0:28:47	すいません補
0:28:49	評価し今日は出ないすいません、令和3年の申請時等、先月の会合時で今後の方針のところの差分で、すいません一番下の
0:29:01	科目人はのところですね、この継続時間の設定って書いてあって初歩的で申しわけないこのM6.9がM7.0になってる、ここって何かどういう違いなんでしたっけ。
0:29:18	九州電力の高田です。こちらに関してまた写真祖父のコメントを踏まえてということで弊社の方にもコメントいただいたものになりますが、もともとM6.9で設定しておりましたもの

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:32	我々としてすそあれですけどM6で実際の6.95程度のものを四捨五入してM6.9程度というところがございまして、その
0:29:43	結果、記者小出の切り上げAで行うというような他社の動向も踏まえまして同様に我々もM7に変更するというところでございます。
0:29:54	その話ですわかりました。ありがとうございます。ちょっととりあえず私から以上、一旦これで以上です。
0:30:05	はい規制庁佐口ですけども少し
0:30:08	ちょっと今のところと関連して、幾つか確認させていただきたいんですけど。
0:30:14	私仙台の方でいきますけど、仙台の資料で、8ページで、一番下の岩石コアでこれはもうすでにあるっていう先ほどですね、
0:30:26	ご回答があったんですけど、これって、いわゆる、なんていうんすかね。以前の資料で出されているそのP S検層結果が、
0:30:38	あるようなところの岩石コア、
0:30:42	という理解でいいんですかね。
0:30:46	九州電力の高田です。ご認識の通りすでにP S検層データ等ありました既存のボーリング孔のコアを用いまして減衰の測定を実施してございます。
0:30:58	はい。規制庁佐口ですわかりましたんで、もし可能でしたら、例えばそれ、どういうものか、多分以前出していただいている、
0:31:08	このだと例えばイエス、仙台だとSの1項2項とか7行とか多分あると思うんですけど、それで、
0:31:16	実際、
0:31:18	何、何行ぐらいのデータを、例えば使うのかですとか、そういうのがもう現段階で、もしわかっているのであれば、ちょっとそういう、
0:31:28	ところを含めて、もうちょっと詳細に記載していただければと思います。
0:31:38	九州電力の高田でございます。江藤最終的に使用するボーリング孔についてはまだ現状検討中というところございますので、ちょっとそうそういう形での、
0:31:49	それをまあね。
0:31:50	詳細なボーリング孔の名称までは記載できないというのが現状でございます。すいません、九州電力イマバヤシです。ちょっと補足いたしますと、まだ、実際ちょっとデータを取りつつあるところもありまして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:02	最終的にどのボーリング孔で、採取したデータという形でちょっと示すまでにはもう少しちょっとお時間いただきたいなというふうに思っておりますので、それが、それらが一旦取りまとまってからご説明させていただければと思います。
0:32:17	はい。規制庁蘇武です。わかりましたちょっと今の段階ではまだ未定なんですけど例えばそれ、
0:32:24	一つなのか、複数、
0:32:27	なのかってそういうこと自体もまだちょっと、
0:32:30	検討中というか、わからないってことなんですかね。
0:32:38	九州電力イマバヤシです一つか複数かという観点でいきますと複数になります。当社といたしましてはなるべくデータの数と増え
0:32:49	充実させまして、ご説明したいと思っておりますので、その複数ではあるんですけども、具体的なその対象校についてはちょっとまた改めてご説明させていただければと思っております。
0:33:02	はい。規制庁宗です。わかりました現状についてはわかりました。で、そのあとの今度ボーリングの話ですけど、これって、
0:33:14	何メートルぐらい掘る、今の見るとマイナス 200 メーター。
0:33:19	ぐらいまで掘るのかなという。
0:33:22	感じは、あの資料から見受けられるんですけど、そういう理解でよろしいんでしょうか。
0:33:33	九州電力の高田です。
0:33:36	経過するボーリングに関してはE L - 200 メーター程度までの
0:33:41	調査を予定してございます。それを踏まえましてE L - 200 メーターまでのQ値の妥当性というのを確認したいと考えております。
0:33:52	はい。規制庁佐口ですわかりました。で、ちょっと引き続き、先ほど都築の方からも確認があったんですけどちょっと前に戻りますけど、
0:34:02	6 ページのところそのデータ拡充っていうのが今のところに、
0:34:08	当たるということで、もしこのデータ拡充っていうのも括弧でデータ拡充っていうぐらいだったら、先ほどちょっとありましたね岩石コアを用いた減衰。
0:34:19	測定とか、
0:34:20	通りボーリング、
0:34:23	取りますとかそそういうふうな何かちょっとわかるようにはしていただきたいと思うんですけど、ちなみに、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:31	こういう、何て言うんですかね、追加で、
0:34:36	調査とか、結構だからボーリング掘るので、それなりの
0:34:41	大掛かりな調査みたいな感じになるんだとは思いますが、
0:34:46	その前に、もうすでに
0:34:51	新たに何か追加の調査をしなくても、
0:34:55	何かこうこれに資するようなデータみたいなのは、
0:35:00	全く、
0:35:01	ないのかどうかって言うのと、
0:35:04	例えば別に、
0:35:05	実際に御社が調査をされなくても、その敷地の周辺も含めて同じよう な、
0:35:13	地層、そういった減水なりの、
0:35:20	値みたいなのが示されているような、例えば文献ですとか、そういった ものっていうのはあるのかなのかって言うのと、それについて実際 に、
0:35:30	何かこう町調査を文献調査みたいのはされているのかどうかっていうの をちょっと教えてください。
0:35:40	九州電力の高田です。衛藤。
0:35:43	今回の追加、この二つのメニュー以外にということでございますが、ま だご説明していない内容でいきますと、
0:35:52	演題を、9 ページのフローの中で言いますと適用範囲の検討、の中に衛 藤さんほかの地盤増幅率による検討というのを記載してございます。
0:36:04	これに関しては、的場座間の地盤増幅率、こちらを用いましてE L - 200 メーターまでのQ 値の適用範囲の検討というところに、この
0:36:17	継続率をもとに各解析的にですけど、確認を検討するというようなこと を考えてございます。
0:36:25	あと、文献調査につきましては、現状
0:36:30	直接的に引用できるような文献というところを確認できていない
0:36:34	できていない部分もございますので、今回追加接種この二つのメニュー を用いて妥当性の確認等、説明させていただこうと考えてございます。
0:36:49	はい。規制庁佐口です。一応現状は理解をしました私のイメージとして は、多分
0:36:56	柏崎とかでも出しているような、あんな例えば文献であったり とかあと敷地内で、他にいろいろこう調査なりを、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:06	したものがもしあればと思ってちょっとお聞きしたんですけど、そういうのは今検討は特にされていなくて、解析的な、
0:37:17	ものだったり、そういうものを用いて、
0:37:22	その妥当性を示されるという。
0:37:25	今、今はそういう方針だという説明はちょっと伺いました。
0:37:32	江藤鳥井とりあえず一旦私からは以上です。
0:37:46	谷さんお願いします。
0:37:48	規制庁谷です。ちょっと細かい話なんですけど、
0:37:51	岩石移行を用いた減衰測定。
0:37:54	て言ってるのと、ボーリング孔内における小減衰測定っていうのは、具体的に何の試験になるんですか。
0:38:05	九州電力の高津です。私の表現、当番制機構を用いた減衰測定こちらに関しては、室内試験においてコアの供試体 A - A 減衰を測定するということを予定してございます。
0:38:19	あともう一つ、ボーリング孔内による下における減衰測定については、起震車での人口震源を用いまして、それをもとに Q 値を測定すると。
0:38:29	というようなメニューを考えてございます。
0:38:35	だからあれですか、ボーリング孔内は、P S 数ってことなんすかね。
0:38:40	で、
0:38:41	質問試験というのはこれ何なんですかね超音波試験か何かの話をして、してるのかちょっとその辺を下、
0:38:48	確認したかったんですけど。
0:38:51	九州電力の高田です。岩石コア試験に関しては超音波による試験でございます。あと、ボーリング孔内の方は検証のものでございます。
0:39:05	事実確認できました。ありがとうございました。
0:39:32	すいません再びスズキであります先ほどの追加のデータ拡充のところに戻っ話なんですけど、
0:39:41	これ、過去の仙台の方でいうと一番最初が 983 回の審査会合で、
0:39:49	一応今回コメント No. で言うと 8、8 かな 8 への、
0:39:56	採用としてありますと、いつ II、結局地盤減衰の設定の考え方根拠とかって話、
0:40:03	何というか一番初めの
0:40:05	ところから根っこが繋がってるような気もするんですけど、結局、申請当時のもので説明すると、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:12	何ていうか、
0:40:15	ここのタイミングから何か調査やり出したのかなという素朴な疑問ではあるんですけど。
0:40:19	これは当初は、
0:40:21	申請当時、伊井の申請直後の会合でも似たような話がされていて、当時は何か別のもので説明しようとしたけども、
0:40:30	今回 1049 回、5 月の会合で言われて、
0:40:34	新たにやっぱりデータ拡充しましょうっていう、これはそういう判断が機構で切り替わったということなんですか。
0:40:42	優秀電力の高田でございます。
0:40:45	申請時、現申請の段階、におきましては 92 a 92.5 については現状の通り解析的に地震計の観測記録をもとに、
0:40:59	推計をしたものでその下 E L - 200 メーターまでについては、P S 検層結果を基に下の速度構造が概ね変わらないということをもとに
0:41:10	200 メーターまでの範囲の 92.5 ということをご説明してございました。その後の審査会合でのコメントでありましたり他社の審査会合の動向等踏まえまして、
0:41:23	やはり地震観測記録のない部分についても、そういった直接的な計測、測定というところが、やはり必要だろうという判断をいたしましてこのように追加のボーリング調査、
0:41:35	等を実施するように判断しております。
0:41:41	なるほど。何となくその話だと、1、1 月の会合でも似たようなコメントをしているような気もしますけどはい。なんで当初というか申請、川内で言うと 6K 去年の 6 月 1 年前ですか。
0:41:53	この時はちょっと先ほど言ったような方法で説明しようとしていて、その後やっぱり地震観測記録替えられていないというようなところについてどうするかっていう話で改めて間確認をすると。
0:42:06	はい。一応そういうこう考えて、わかりました。はい。
0:42:20	規制庁佐口ですけども、ちょっともう 1 回、全体通して、
0:42:26	ちょっと気さして、
0:42:29	記載の内容が少しわかりづらいところがあるので確認させていただきたいんですけど。
0:42:35	川内の 7 ページの、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:39	2 ポツ目のところなんですけど、この既許可の地下構造モデルとは切り分けて、
0:42:52	地下構造モデル新たに設定ってあるんですけどこの
0:42:56	切り分けてっていうのはどういう意味なのかなと思ってそう、ずっとこうした主におよんでいくと当然、
0:43:06	真木評価モデルは長周期滞納地震動評価への適用目的に設定したもので、
0:43:12	今回のモデルというのは標準応答スペクトルを評価するために、
0:43:18	その短周期も含む地震動評価への適用を目的に設定と、
0:43:25	ただし、それは貴重海溝も、
0:43:29	この継続的に、いわゆる取得している、地震記録や最新の知見等を取り入れて、
0:43:40	既許可の時地下構造モデルの地盤減衰を精緻化、
0:43:45	今日もご説明ありましたけどあくまでも企業かも、地下構造モデルというものをベースに、
0:43:57	ここにもありますように、地盤減衰のところだけを精緻化しますよって話なんですけど、これと、先ほど2 ポツ目の一番最初の菊川も地下構造モデルとは切り分けてっていう、
0:44:10	この部分って何か相反するような気がするんですけどちょっとそこ、
0:44:15	もう1 回この意味とその考え方っていうのを教えてください。
0:44:24	九州電力の明石でございます。実は正直申し上げるとこの表現をどうするか、すいません我々も資料を作成する中で、悩んだところではあったんですけどもどうしても頭、
0:44:38	念頭に、前回の会合でご説明しました、菊川のモデルも含めて、まとめて見直しますと、一旦そういう宣言をしたのがちょっと頭にあったもので、そうじゃなくって、既許可のモデルは既許可のモデルで今回、表層部分の、
0:44:55	減衰を精緻化したモデル、これは標準応答スペクトルを評価するためのものとして使いますというウーは一緒、一緒に見直すんじゃなくて元の
0:45:07	モデルは、保存というか置いたまんま、今回のモデル長層の減衰を精緻化したものは、庄司応答の評定とセットの鋭意計算に用いるものとして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:20	設定しますということを念頭に、前回の会合に向けた一緒くたに見直しますじゃなくってやっぱ、もともと木藤の許可のものと今回のものは別のものとしておきますと、
0:45:34	いうつもりですみません、切り分けてという表現になっちゃったところがございます。今浅見さんからご指摘ありました通りちょっと書いてることと整合しないところはあるかなとは思いますがすいませんちょっと悩んだ結果、今の表現になっておりますので、
0:45:50	引き続きちょっとテキスト適切な表現に置き直すべきべくちょっと検討はしたいと思います。
0:45:56	以上でございます。
0:45:58	はい。規制庁佐口です。で、ごめんなさいそうするとさらに、実は私、よく分かんなく今なってしまって、なぜかというんですね、
0:46:10	今のご説明だと、既許可のものと、今回のものは別々のモデルとして要は地下構造モデルとしては、
0:46:20	御社の敷地内とにかく二つあると。
0:46:24	なのにもかかわらずですよ、例えば仙台の7ページの一番最後のところに、
0:46:31	ここの起居。
0:46:33	下の地震動評価。
0:46:37	この基準地震の影響がないことを確認っていうのが、
0:46:41	全くわかんなくって、いやいやもともと別モデルなんでそんなことする必要はないんじゃないのと普通に思ってしまうんですけど、かといって、我々じゃ二つモデル別のモデルありますよっていうのは、
0:46:55	いいのか悪いのかは別として、
0:46:57	じゃあなんで、今度切り分けて、別々のものとして考えることができるのかどうかっていうのが、
0:47:07	多分、
0:47:08	説明がないのかな例えば、
0:47:11	あくまでも清川の地震動評価っていうのはもう経験的グリーン関数しか用いていません。少なくともハイブリッドとかはしていませんとかいう、
0:47:22	話ですよ。しかも特定せずなんていうのは、とるもんはありましたけど留萌っていうのはもう、そもそもそのまま直接、
0:47:31	近く、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:34	何て言うんすかね、V s V s を考えれば、もうそのまま直接使うので、地下構造なんて用いる必要がないので、その期間の
0:47:45	っていうのは一切、
0:47:47	地下構造モデルって、その理論的かそうじゃないかは別としてですね。
0:47:53	使うものじゃないんです。なので今回、少なくともこの標準応答スペクトルっていうのは地下構造モデルが必要なので、
0:48:04	そのための設定をしますとかっていう、
0:48:07	御説明だったらわかるんですけど、
0:48:09	ちょっと川内、玄海、少なくともどちらかはハイブリッドを確実に使っていて、
0:48:16	じゃあそのモデルと今回のモデルってどう。
0:48:19	切り分けられるのか、単にその長周期側の、
0:48:25	評価、
0:48:26	だから、
0:48:28	既許可モデルはそのまんまで今回のモデルは短周期も含めてのモデルなんで、しかも短周期も含めてっていうのがちょっと、
0:48:37	じゃあ長周期はどうなんだっていう話も当然あると思うんですけど。
0:48:43	あくまでも短周期に特化したモデル。
0:48:46	ていうんだったらまだ、
0:48:48	何か理解もできますししかも、あくまでも、今回必要なものなのは、
0:48:54	地震基盤、
0:48:56	相当面、
0:48:57	より上のモデルがあって、
0:48:59	それより下っていうのは当然いらないわけなので、それも含めてなんでじゃあ、そういうのもあるのかなとか、ちょっとその辺がですね、よく、
0:49:09	わからなくなってる部分もあるんで、
0:49:11	ちょっとやっぱりそこは整理をしていただきたいと思うんですけど。
0:49:20	はい。九州電力の明石でございます。ここはおっしゃる通りもうちょっと1ページにちょっとまとめるのではなくって、しっかり立てつ形として、
0:49:32	整理はしなきゃいけないかなとは思いますが。ただこれはこれまでのヒアリング会合のときに会合でも、ちょっとご議論いただいたところもありましたけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:42	あくまでももとのモデルこれは玄海も川内も要綱とも、断層モデルの評価ではハイブリッドを行いまして特に長周期側、理論的解放地盤モデルを使って、
0:49:58	計算を行っております。ただ結果として、今回は経験的グリーン関数法の結果、に本会合が大きく下回りましたので、採用されてるのはE G F、経験的グリーン関数法であるということ。
0:50:17	仙台はハイブリッドの結果が経験的グリーン関数法による評価、長周期体は上回っておりますが、S s 応答スペクトルによるS s 宇井の1、
0:50:30	これを下回りましたので基準地震動としては採用してないと、いうことだから結果論ではありますけども、S sとしては長周期体の計算に自身
0:50:43	地盤モデルは使ってないという形にはなっております。
0:50:48	で、すみません話が元に戻りますけどもたてつけとしては、あくまで、もともとは、気液局のモデルは長周期の計算に用いたもので、今回の標準応答スペクトルに対してのところに、
0:51:01	短周期に特化してブラッシュアップしたものであるということなので位置付けとしては切り分けて用い切り分けてというか、それぞれで用いるものだと、いうふうに考えておりますがこれも、
0:51:14	これまでご説明してきたところきっちり文字として資料としておつ落とさなければいけませんけども、とは言いながら、今回のモデルによって今回のというか、
0:51:25	照準オートスペクトル向けに、ブラッシュアップしたモデルAについて、長周期側のそのハイブリッドの理論介護に、
0:51:36	使ってみると、これまで先ほど玄海は経験的グリーン関数法を下回りました。仙台はオートスペクトルの成層下回りましたと申しあげましたけども
0:51:49	関係性が逆転するようなことがあると、いかに切り分けてても、ちょっと待ってという話になりますので、そこの確認はしっかり行った上で、やっぱり長周期に影響を与えるものではないよね。
0:52:05	それぞれで使って問題ないよねということは確認しておかなければならないと、いうふうに考えまして、川内で言うところの7ページの一番下、
0:52:15	表現があるところでございます。そこまでの考え方の過程がちょっとぎゅっと要約するとなかなかわかりにくいところかなと思いますので、改めてしっかり

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:28	文字の形で印でご説明できるように整理したいと思います。以上でございます。
0:52:35	はい。規制庁佐渡です。ありがとうございます。なのでここはちょっと今の段階ではちょっとわかりづらいので、もうちょっとそこは整理をしていただければと思います。かといってですね、
0:52:47	そんな時間を要するものじゃないと思うんですけど、そんなに時間をかけていただく必要もないので、最低限のところだけです、わかりやすくウーだけはしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
0:53:02	九州電力の明石でございます。川内であれば、6ページのスケジュールに書いております通りこの辺の位置付けについては、7月末の資料提出をする予定しております。
0:53:15	中でもしっかりわかりやすく整理して、提出したいと考えておりますので、今、佐口さんからありました通りそんなに時間かけるまでもなく、
0:53:25	わかりやすく整理をしてご説明したいと思います。以上でございます。
0:53:36	羽田先生今のところは、とりあえず今回の資料としてはとりあえずこれではいいけど次の責任はしっかりと説明してくださいという。
0:53:45	そういうことでいいですか。
0:53:48	直せるなら、多少、今のこの1ページの中で、もうちょっと記載を行われたものにできるなら、さっとやってもらおう。
0:54:05	あと他は、
0:54:07	今のところスケジュール以外では特にはないですか。
0:54:20	そういう意味で言うと、資料で言うと一通り事実確認は今させていただいたんで、
0:54:27	さっきも言ったかもしれないけど一応6ページ、川内で言うと6ページのところは、
0:54:32	一応地盤減衰コメント8のところは一応資料提出と会合が二つあるので、ちょっとそれぞれどっちの話なのかはわかるように、
0:54:43	同じく8ページで言うとその岩石コアを用いた方の話とボーリングを新たに掘りますという話と、ちょっとここがわかるようにしてもらいたいかなっていうのはありますけれども、
0:54:54	他何か。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:56	とりあえず資料ここは手を入れてっていうようなコメント特にはないですか。
0:55:23	よければとりあえず資料の方は、それぞれもほぼ簡単ではありますがでも簡単に直していただいて、
0:55:31	強化、
0:55:34	水曜日か。
0:55:37	水曜日です。いつぐらいとかになりますそのもともと分厚いものじゃないので、そんな時間かからないとは思いますが、
0:55:52	九州電力のイマバヤシです。資料提出、今週金曜日までにちょっと整えまして提出させていただきたいなと思っておりますけども。はい。金曜日の夕方ぐらいまでっていうことですね。とりあえず
0:56:07	予定の介護の話としては、スケジュールの話なんで、そんな先に会合をかけてもというのは思ってたので、できれば来週の来週から7月、
0:56:18	1日か。
0:56:19	のところがコマにはめようかなとは思ってるんですけども、金曜日には、
0:56:24	金曜日に夕方に限らず、どの時間でも結構ですけども、金曜日にはお持ちいただけると。
0:56:30	ということですかね。はい。そうですね。はい。遅くとも金曜日中には提出するようにいたしますので、
0:56:37	はい。資料が早くでき次第、できましたらもうその段階で送付させていただきたいと思えます。
0:56:44	はい、わかりました。よろしく申し上げます。
0:56:52	あ、すいませんリモートで参加してる田嶋さんちょっと今日スケジュールの話なので、あまりあれかもしれませんけど、何かコメントとか確認しておくことございますか。
0:57:03	地積のタジマです。特にございません。ありがとうございます。
0:57:08	はい、了解です。承知しました。
0:57:21	わかりました。九州そちらの方から何かこちらに確認することあります。
0:57:26	なければヒアリングこれで終了しようかなと思っておりますけど。
0:57:32	九州電力田子です。こちらから特にございません。
0:57:38	すいませんもし会合で説明するとすると、今日はちょっと仙台先に説明して限界を多分説明してっていう感じでしたけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:47	説明時間大体何分ぐらいですかね。
0:57:57	九州電力の高田です。本日と同じぐらいになりますが大体 10 分程度、ちょっと超えるかなぐらいと想定してございます。わかりました。はい。
0:58:16	はい。他よろしければヒアリングの方は、これで終了したいと思います。
0:58:22	ご苦労さまでした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。